

建設会報 いずも



No.129

2016年

新春号



表紙の言葉



温泉施設の行方

えと文 / 渡部良治

「何処を掘ってもお湯が出る」といわれるほどに山陰は温泉に恵まれ、平成に入ってから出雲地方でもあちらこちらで源泉の掘削が行われました。各自治体毎に温泉施設を抱え〇〇温泉と銘打ち「お湯めぐり」のイベントが行われるほどでした。

しかし、合併10周年を迎えた出雲市では、厳しい財政の中11の温泉施設のうち9施設について民間譲渡の方針を打ち出し、その内1箇所は譲渡先がみえたとか…。

温泉施設の行方は今年の話の一つとなることでしょう。

「地域振興の起爆剤」「住民の憩いの場」と期待を持って造られた温泉施設、今後どう運営したらいいのか、お正月休みには久しぶりにお湯に浸かってゆっくり考えてみたいものです。



C O N T E N T S



▶ 巻頭言／中筋 豊通〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会長〕……	1
▶ 新年のご挨拶	
／舩田 直樹〔国土交通省出雲河川事務所長〕……	3
／八木 勝也〔出雲労働基準監督署長〕……	4
／伊藤 敏成〔出雲警察署長〕……	5
／永井 克彦〔出雲県土整備事務所長〕……	6
▶ 平成27年度優良工事等表彰／表彰一覧 ……	7
▶ 優良工事表彰を受賞して／穴戸 克己〔株フクダ〕……	9
▶ 島根県労働局長賞安全衛生表彰功績賞を受賞して	
／安全委員会委員長 平井 貴司〔有平井組〕……	10
▶ 黄綬褒章受章にあたって／今岡 余一良〔今岡工業株〕……	11
▶ ふりかえって／山下 安夫〔株山下工務所〕……	13
▶ 年男の抱負／米江 猛〔有米江組〕……	14
▶ 安全委員会 視察報告	
／安全委員会副委員長 三代 修治〔有斐川建設〕……	15
▶ 経営研修会に参加して／土江 のり子〔有丸嘉土建〕……	16
▶ インターンシップ体験談 ……	17
▶ 株式会社出雲建設会館竣工10周年記念事業	
／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会事務局長 木村 寛…	19
▶ とんかつ専門店 薩摩居酒屋 かのや	
／岩崎 昭子〔株岩崎建設〕 ……	21
▶ 第28回 サラリーマン川柳 ……	23
▶ 編集後記	
／三原 昇〔やたま建設株〕 ……	25





ひのえさる
平成二十八年『丙申』

伸びる努力を重ねよう！

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
会 長 中 筋 豊 通

平成二十八年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

『丙申』ひのえさる へいしん 「丙」は、陰陽五行でいえば火であり、燃えるような灼熱の意味が、また「申」は、伸びる、まっすぐと言う意味があるとされています。

さて、建設投資の減少や受注競争の激化等により、建設企業が疲弊し、現場の技術者や技能者の処遇悪化や、若年入職者の減少等を抜本的に解決するため、一昨年度「担い手三法」が成立・可決し、昨年4月から運用指針が全面実施されるとともに、「産業活性化会議」を中心に、課題や方向性を議論、具体的な行動が開始され建設産業界にとっては、再生元年になると期待された年でした。

しかしながら、西日本建設業保証（株）のデーターを見ると、島根県内の公共事業の執行状況は、上半期、月別全てで前年度対比がマイナス、累計でも約20%の減少となり、大変厳しい状況が続きました。素晴らしい県土は、安全・安心な県土創りはまだ道半ばなのに・・・。



今年を、どんな年にするのか、「担い手三法」の理念が国、県、市町村の各発注者及び受注者の現場担当レベルまで浸透し、適正な価格で、適正な工期で、適切な設計変更によって、工事ごとに適正な利潤が確保され、経営力が強化され、次世代を担う優秀な若者が、夢を持って飛び込んでくれる『魅力ある建設産業』にするために、「産・官・学」一体となって、行動していかねばなりません。

平成二十八年、『丙申』に、あやかって、個人も企業も進歩発展し伸び栄えることを期待し、先ず【自己研鑽】そして「地域とともに、地域のために」この理念に基づき、災害、豪雪、維持管理への対応等、地域の安全・安心を確保するため、使命をしっかりと果たしながら、地域に信頼され、必要とされる協会となるよう、協会員の皆様とともに頑張ってまいります。

今年もよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。



新年のご挨拶



国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所
所長 舩田 直樹

明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。平素から、国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、いわゆる治水3点セットのうち、これまでに上流部の志津見ダム、尾原ダム、中流部の斐伊川放水路が完成し、出水時に水位低減効果を発揮しています。引き続き、洪水等による浸水被害を低減させるため、斐伊川の堤防整備や下流部の大橋川改修及び中海・宍道湖湖岸堤整備の事業進捗を図ってまいります。

また、安全・安心な地域づくり、地域の活性化に向けて、流域一体で3つの取組を推進します。昨年発生した鬼怒川の水害のように、計画規模を超える洪水に対してはハード整備だけでは守ることができず、避難などソフトの対策及び発災後の早期復旧への備えが不可欠です。そのため、平常時及び洪水時に出雲河川事務所から提供する情報とその対応等について、市や地域住民との勉強会を行うとともに、流下能力が低い箇所や過去に漏水があった箇所など洪水に対しリスクが高い区間の共同点検などを充実させてまいります。加えて、避難勧告等に着目したタイムラインの策定や想定しうる最大規模の降雨を対象とした浸水想定区域図の作成、災害応急活動等に関する基本協定を締結している業者の皆様とともに早期復旧に向けた検討などを進めてまいります。

さらに、「ミズベリング・プロジェクト」では、水辺の可能性を感じてもらうステージから、水辺で実践する方法を考えるステージへ移行する中で、斐伊川放水路(ヒーホー)の利活用提案を募集する「ヒーホーステーション」を設置しました。

また、宍道湖・中海圏域は日本で唯一ガン、ハクチョウ、ツル、コウノトリ、トキという5種類の大型水鳥が生息できる潜在性を持つ水辺環境を有しています。こうした環境の保全や創出、大型水鳥類の魅力を活かした持続的な観光地づくり、農業分野の活性化に向けて、中海・宍道湖圏域の広域連携の取組として「生態系ネットワークの形成による流域づくり」に取り組んでまいります。

さて、建設業は地域の安全・安心を守り、経済を支える「砦」です。災害時の対応だけでなく、平常時の維持管理が重要であり、そこには地元精通した建設業者の存在が不可欠です。昨年11月には、島根県出雲地区建設業協会とともに土木の日記念イベントとして、建設機械や災害対策車両の展示、斐伊川放水路バスツアー、模型実験などを通じた建設業の担い手確保の取組を実施いたしました。当日は雨天にもかかわらず多くの方にご来場いただき、建設業のイメージアップにもつながったものと思います。こうした取組も含め、建設業協会の皆様方には女性技術者の活用、若手技術者の育成などを通じた、地域防災力の向上に期待しております。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲労働基準監督署
署長 八木 勝也

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、平素より労働基準行政、なかでも労働災害の防止につきまして、ご理解、ご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年における当署管内の建設業における労働災害の発生状況は11月末で39件と死亡災害は発生していないものの昨年同期比で12件、44パーセントの大幅な増加となっております。

全産業では死亡災害1件を含み228件が発生し昨年同期比25件、12パーセントの増加となっております。

災害は中長期的には減少傾向にありますが、残念ながら当署管内におきましては平成27年の労働災害は大幅に増加しております。

建設業において発生した災害の内容を見ますと、39件のうち、12件が墜落災害であり、次いで、切れこすれ災害が5件、はさまれ災害が5件等となっております。

このように平成27年におきましても、建設業の災害のうち30パーセントを墜落災害が占める、という状況にあります。

このため、会員各社におかれましても、昨年12月から年末年始労働災害防止強調期間として災害防止活動を展開いただいているところではございますが、新年も労働災害の防止、特に墜落災害の防止に力点をおいて災害防止に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

また、去年は安全面だけでなく、衛生面、特にメンタルの面にも大きく注目を浴びることとなりましたが、労働安全衛生法の改正により昨年12月1日からストレスチェック制度の実施が事業者には義務づけられることとなりました。

これは職場でのストレスの度合いをチェックすることにより、労働者自身には自分がかかっているストレスの度合いを確認すること、事業者には自社のどの部門にどのようなストレス要因があるのかを確認し、その軽減を図ってメンタルヘルス対策に役立てようとするものであり、是非とも積極的に実施をお願いいたします。

地場の主要産業の一つである建設業におきましては、これからも地域のインフラを充実させ、地域を支える大きな役割があります。

この役割を果たすためには、まず、建設業に従事する労働者が安心していきいきと働ける環境が必要となります。

安心で安全な島根の建設業の発展のために、皆様のより一層の理解とご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の益々のご発展と会員の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲警察署
署長 伊藤 敏成

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また昨年中は、お忙しい業務の中、暴力団排除活動や交通安全活動、犯罪捜査等の警察業務の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

昨年中における島根県内の犯罪情勢は、窃盗事件等の刑法犯認知件数は前年より減少しておりますが、社会問題となっている振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害件数及び被害額は、いずれも増加の一途をたどっており、皆様の体感治安は決して良好とは言い難い状況であります。

さて、暴力団情勢に目を向けてみますと、昨年 8 月に国内最大規模の暴力団である指定暴力団六代目山口組の分裂騒動が勃発し、神戸に拠点を構える山健組を筆頭とした諸団体が新たに神戸山口組を立ち上げました。

このような情勢のもと、県内における六代目山口組傘下の三団体について動向を注視しながら、あらゆる警察活動を通じて情報収集に尽力しているところであります。

平成 23 年 4 月に「島根県暴力団排除条例」が施行され、平成 24 年 4 月には「出雲市暴力団排除条例」が施行されたことにより、出雲市民と行政、そして警察が一体となった暴力団排除活動に取り組んでいるところであります。

出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたり暴力団組事務所の進出を許しておりません。

今後も暴力団のない明るく住みよい社会を維持していくため、皆様方には引き続き

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない

の「暴力団追放三ない運動」に

- 暴力団と交際しない

をプラスした「**暴力団追放三ない運動+1**」の実践をお願い致します。

出雲警察署といたしましても、引き続き協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、犯罪のない安心で安全なまちづくりの実現に向け、署員一同、誠心誠意取り組んで参りますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲県土整備事務所
所 長 永 井 克 彦

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

昨年は、免震ゴムの性能データや杭打ちの工事データ改ざん事件があり、品質確保に向けた取り組みの重要性を改めて感じさせられました。

島根県においては改正品確法の主旨に則り適切な発注に努めますので、協会員の皆様におかれましてもしっかりした品質管理のもと、引き続き質の高い社会資本の整備をしていただきますようお願いいたします。

さて、大正4年(1915年)11月7日に大社大鳥居が建立され、神門通りと命名されてから100周年の節目を迎えましたが、本殿遷座祭以降続く神門通りの賑わいは途絶えることなく、昨春に全線開通となった尾道松江線の効果もあり、行き交う車の中には山陽・四国ナンバーを多く見かけるようになりました。

出雲県土整備事務所が進めている神門通り線の整備も勢溜から大鳥居までの1工区が完成しましたが、さらに県内外のお客様や地元の方に喜んでいただけるよう大鳥居からご縁広場交差点までの2工区について引き続き整備を行ってまいります。

また、出雲県土整備事務所では社会資本の整備を進めるにあたって、「競争力のある地域経済社会の構築」「自然災害に対して安全で安心して暮らせる地域づくり」「快適で安心して暮らせる都市と中山間地域、半島地域等の基盤整備」「社会資本施設の効率的な維持管理」の4つを重点目標に掲げ事業展開を図っておりますが、矢尾今市線、出雲三刀屋線など幹線道路の整備による交通ネットワークの強化や新内藤川水系・十間川・湯谷川などの整備による低平地の浸水被害の解消、出雲河下港の整備による物流の強化、出雲西地区などにおける農業基盤の整備を進めるとともに、老朽化したトンネル・橋梁等の修繕や橋梁の耐震補強、中山間地における土砂災害防止などの事業を強力に推進してまいります。

こうした取り組みを通じて出雲圏域全体の安全・安心の確保、活力の創出につながる社会基盤の一層の充実を図ってまいりますので、引き続き関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

平成 27 年度(平成 26 年度完了)
 島根県優良工事等知事表彰

◇ 優秀建設技術者表彰 (優良工事知事表彰)

部門	工種	工 事 名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	国道 431 号 杵築東工区 県単道路(電線共同溝) 工事	岩成工業 株式会社 代表取締役: 岩成 健治	飯浜 健
	河川	牛頭川 県単河川緊急整備工事 落合橋下部工・平池川樋門工	株式会社トガノ建設 代表取締役: 梶野 直宏	
	都市 計画	出雲市駅前矢尾線(3工区)防災安全交付金 (街路)事業 電線共同溝工事	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	清水 渡
農林 水産	森林 土木	平成 25 年度 林道開設事業(森林管理道) 宮本聖谷線 第 2 工区 道路工事	株式会社 安井組 代表取締役: 安井 和弘	塚田 淳也

◇ 優秀建設技術者表彰 (優良業務知事表彰)

部門	業 務 名	会社名/代表者	管理技術者
土木 設計	平田船川(湯谷川)防災安全交付金(広域河川) 工事 樋門詳細設計業務委託	出雲グリーン 株式会社 代表取締役: 吾郷 直之	福田 俊太郎

◇ 優良下請工事表彰 (優良工事知事表彰)

工 事 名	受注業者の商号及び 代表者の職・氏名	下請業者の商号及び 代表者の職・氏名
出雲市駅前矢尾線(3工区)防災安全交付金 (街路)事業 電線共同溝工事	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	株式会社 ヒロクニ建設 代表取締役: 廣國 勝

平成 27 年度(平成 26 年度完了)
 島根県優良工事等所長表彰

◇ 優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 出雲インター線 大島交差点工区 総合交付金(改築) 工事	山陰建設工業 株式会社 代表取締役: 磯田 真左一	福田 修康
		(主) 斐川一畑大社線 地合工区 防災安全交付金(改築) 工事(第1期)	株式会社 フクダ 代表取締役: 長岡 秀治	穴戸 克己
		(一) 矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築) 工事(第1期)	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	糸川 賢一
		国道 184 号 反辺工区 防災安全交付金(災害防除) 工事	今岡工業 株式会社 代表取締役: 今岡 余一良	

部門	工種	工 事 名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 三刀屋佐田線 朝原2工区 社会資本整備総合交付金(改良)工事	株式会社 今岡興産 代表取締役: 今岡 裕統	河井 稔之
	河川	赤川 県単河川緊急整備工事 (国道迂回路第2期)	株式会社 ダイニ 代表取締役: 安達 稔	奥林 和弘
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	名原 勇司
	砂防	原1地区 道路防災安全交付金 (急傾斜地崩壊対策)工事	有限会社 森山組 代表取締役: 伊藤 俊郎	高橋 智
建築	建築	島根県営住宅((仮称)出雲市新有原団地) 建設(第1期建築)工事	内藤組・出雲土建 特別共同企業体 代表者 株式会社 内藤組 代表取締役: 内藤 和雄	有藤 隆行 多々納 英治
農林 水産	農業 土木	平成25年度 農地整備事業(経営体育成型) 出雲西地区 区画整理(5)工事	山陰建設工業 株式会社 代表取締役: 磯田 真左一	西 武志
		平成25年度 地すべり対策事業 出雲第二期地区 斜面改良(御田)工事	株式会社 今岡興産 代表取締役: 今岡 裕統	糸賀 学
		平成25年度 水利施設整備事業(排水対策 特別型)山王地区 排水路(その3)工事	株式会社 倉橋工務店 代表取締役: 倉橋 一喜	金坂 篤
	森林 土木	平成25年度 県単自然災害防止事業(庄大) 山腹工事	有限会社 平井組 代表取締役: 平井 貴司	長廻 義文

◇ 優秀建設技術者表彰 (優良業務所長表彰)

部 門	業 務 名	会社名/代表者	主任技術者又は 管理技術者
地質調査・ 測量・調査	平田船川(湯谷川) 防災安全交付金 (広域河川)工事 用地物件調査業務委託	出雲グリーン 株式会社 代表取締役: 吾郷 直之	門脇 実
農林水産 設計	平成26年度 農村地域防災減災事業 (地すべり対策事業)和田南地区 地質調査及び機構解析業務	島建コンサルタント 株式会社 代表取締役: 小田 基明	高木 昌文

◇ 特別表彰 (所長表彰)

表 彰 理 由	会社名/代表者
長年の河川の維持管理業務における功績が顕著であるため	株式会社 岩崎建設 代表取締役: 岩崎 哲也





優良工事表彰を受賞して

株式会社 フクダ

監理技術者 宍戸 克己

この度、平成26年度完了(主)斐川一畑大社線 地合工区 防災安全交付金(改築)工事(第1期)に於いて、優良工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

この工事は出雲市地合町地内を通過する(主)斐川一畑大社線地合工区における道路改良工事に伴い、切土部の地すべりが発生しており、その抑止工としてアンカー工と吹付法砕工を施工する工事でした。

今回の工事の特長はまず設計の調査ボーリング位置が、地すべり付近で実施されていない為、チェックボーリング及び標準貫入試験を4箇所行い、その地層断面を解析してアンカー長を決定してからでないでアンカー材料が発注出来ない事。次に現場に向かう道路が1箇所しかなく、その道路の途中途中の幅員が狭いうえにカーブが多く、対向車が見えにくく、又、大型車両と一般車両とが擦れ違える待避所も数箇所しかないという事でした。特にこの2点について施工前に発注者と対応について協議を重ねました。

アンカー長の決定については、地層断面を解析してから結果が出るまで約2週間、アンカー材料及び受圧板は受注生産の為、注文してから3~4週間程度、合わせて約1カ月半の日数が掛かります。そこで、どうしたらここまでの工程を短縮させる事が出来るのかを協力会社と工程及び施工方法等の打合せを綿密に行い検討しました。協議の結果、チェックボーリングの施工を2班体制で行い、チェックボーリングが完了した場所から随時、地層断面の解析を行っていくという同時施工を実施する事にしました。その結果、アンカー長決定までの工程を半分以上も短縮させる事が出来て良かったです。

現場に大型車両を搬入出す際の対策は、先に待避所の一つ前の待避所に誘導員を配置し、一般車両が来れば止まって待ってもらう準備をしてから、大型車両の運転手に連絡をして、待避所まで出発してもらいようにしました。又、大型車両の少し後方に工事車両を走らせて、一般車両が来た時に大型車両との安全な車間距離を確保するようにもしました。この方法の繰り返しで大型車両を現場まで安全に誘導しました。その結果、何回か一般車両の人に待ってもらう事はありましたが、無事故で大型車両の搬入出が終わる事が出来た事は大変良かったと思います。

工事完了後、地元の土木委員さんにお礼の挨拶に行った時に、工期より1ヶ月も早く工事が完成してとても良かったと感謝してもらいました。又、その時に土木委員さんは、この地合町地内を通過する(主)斐川一畑大社線の拡幅を、地域住民がどれだけ望んでいるかという話を熱く語られました。その話を聞き、私は少しでも地域住民の方の夢に貢献する事が出来て嬉しかったです。今後も自分自身に現場の条件に即した対応力と技術力を身につけ、更に磨きをかけ、発注者様及び地元の皆様へ感謝されるような工事を完成出来るように、一生懸命努力して頑張っていきたいと思っています。





島根労働局長安全衛生表彰を受賞して

安全委員会

委員長 平井 貴司〔有平井組〕

新年明けましておめでとうございます。

このたび島根労働局長安全衛生表彰功績賞を頂き大変感謝をしています。思い起こせば合併前の旧平田市時代より安全委員を務めさせていただき平成21年からは委員長となり、至らない私ですが会員の皆様に支えていただき現在に至りました。私は一昔前までは面倒くさい、お金がかかるなどのイメージが付きまとう「安全」をどうすれば皆さんの身近なものになっていくのだろうか、もっと楽しく？安全について話ができないものか、何でこんな危ない事をするのだろうか、などと思っていました。安全意識の高まりと同時に“安全は出雲から”を合言葉とするようになり本当に身近なものへと変わってきました。私が安全委員長になり安全パトロールで労働基準監督署の方々や発注機関の皆様と話す機会が増え、よく言われることがあります。それは「楽しそうにやっているね」とか「いつも笑ってるね」などです。自分では気づかないのですが自然とそのような顔になっているのでしょうか。(笑)仕事との両立でとても忙しいですが、おかげで充実した毎日です。以上書きました通りこのような私が賞を頂き大変恐縮しております。

年頭にあたり今年も安全委員が一丸となり無事故、無災害をめざしてまいりますので、リスクアセスメントや各研修会など皆様にも色々ご迷惑をおかけすると思いますがどうか宜しくお願いします。

最後に**年末まで各社、各現場無災害**でいきましょう。 ご安全に！



平成 27 年度 島根労働局長安全衛生表彰

優良賞	株式会社今岡興産
功績賞	平井 貴司 (有限会社平井組)

平成 27 年度 島根労働基準協会長安全衛生表彰

優良職長賞	長澤 一弘 (株式会社フクダ)
-------	-----------------



黄綬褒章受章にあたって

今岡工業 株式会社

代表取締役 今岡 余一良

新年明けましておめでとうございます。お蔭様で今年も無事に新しい年を迎えることができました。本年もよろしくお願い致します。

今年の干支は丙申で、丙とはかまどの中の火を表現したということで、甲で芽を出し、乙で伸び悩んでいた陽気が、丙でいよいよ盛んになるという意味だそうです。

また、甲は伸びるの原型で、物事や新しい動きが伸長していく様子を表しています。申年は非常に縁起の良い年で病気が去る、病に勝るといわれています。本年が会員の皆様にとってご健勝で明るい良い年になるよう祈念いたします。

さて私こと この度、平成27年度秋の黄綬褒章受章の栄に浴しました。これもひとえに永年にわたる会員そして地域の皆様の心温まるご指導とご厚情の賜物であり、深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

10月に黄綬褒章受章の内示があり、11月2日に報道発表がなされ、13日に伝達式と天皇陛下のご拝謁という通達がありました。当日まで交通違反や交通事故にも随分注意しましたが、お蔭様で何事もなく13日をむかえることができ一安心でした。

前日に家内と上京し帝国ホテルに宿泊、ホテルの方からお祝いの言葉、おもてなしを受けました。当日朝は少し早めに起き、私はモーニング、家内はホテルにて着物に着替え、すべての準備を終え国土交通省に向かい手続きを済ませ伝達式、式典会場に臨みました。会場の雰囲気に対し少し緊張しましたが、中筋会長に写真を撮っていただいたり和やかなムードに包まれました。式典では石井大臣より伝達があり、黄綬褒章を拝受し皆が褒章を胸に記念撮影をいたしました。

昼食後、バスで皇居に向かい大広間の豊明殿に通され、拝謁の方法の説明がありました。予定の時刻に天皇陛下がお出ましになり、代表の方がお礼の言葉を述べられ、その後天皇陛下のお言葉がありました。



功労を讃える温情あふれる優しいお言葉に感動し涙いたしました。

これだけ間近に天皇陛下に接し、優しいお人柄を実感したこの日は生涯忘れることはできません。

拝謁が終わると、宮中での記念写真の撮影、夜は石井大臣出席のもと建設業11団体主催の祝賀会が東京会館で開催され、石井大臣、団体幹部の皆様、そして中筋会長と共に楽しい有意義な時間を過ごしました。

私は40数年この建設業に従事し、多くの方々との出会いそしてご指導、ご高配をいただきました。

あらためて感謝申し上げますと共に、今後は建設業界の発展と、地域のために力の限り尽くしたいと思います。

ありがとうございました。





ふりかえって

株式会社 山下工務所
代表取締役 山下 安夫



新年あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに輝ける年をお迎えのことと思います。

今年私は、申年生まれの年男、早いもので還暦を迎える年になりました。

私がこの業界に入り、初めて大津の協会へ挨拶に行ったのが36年前の二回り目の申年、当時の会長が「故馬庭克吉」様でした。ピンと張りつめた空気があった記憶があります。

この後に、馬庭会長より推薦をいただき安全委員会の一員として現場を廻り、安全について多くの勉強をする機会を与えていただきました。

当時は、今日のような立派な密閉された冷暖房付の現場事務所ではなく、トタン板で適当に囲っただけ、或はブルーシートで屋根だけを張った休憩小屋、休憩場所と言ったところでしょうか、到底「事務所」と言うものではありませんでした。

まさに「きつい」「きたない」を地で行く現場環境で、安全には無関心なところがありました。これを改革しようと会長を先頭に努力してきました。

会長が「故梶野悦宏」様が変わられた頃からでしょうか、現場事務所もプレハブ、ユニットハウス、連棟ハウスと変わり、安全管理、安全優先と現場環境、意識は大きく改善されたと思います。

平成6年4月義父が65歳で亡くなり、私は38歳で社長になることに。この年の前後には義父が親しくさせていただいた社長さんも何人か亡くなられ、世代交代された記憶があります。義父を送った後、この年は役員改選の年で、梶野会長様より「親父の代わりに理事になれ」と、戸惑いがありましたと言われるままにお引受けし、当初は安全委員と理事を掛け持ちで沢山の皆様と接し、経験をさせていただき、今日まで来ました。酒も随分と飲みました。

そして現在「中筋会長」の下で理事として微力ながらお力になれるようにと思っています。

近年は、想定外の災害が多く発生し、尊い命が奪われました。また、耳を塞ぎたくなる様な事件が毎日のように報道されています。

このような不幸が「サル」年となってほしいと願ってやみません。

私事ですが実は我が家には、申年生まれの4人います。そして、この会報が出る前には、嫁に行った娘に5人目の申年が誕生予定です。

年明け早々めでたいことと楽しみに思っています。

そして、これからの子供たちの為によい社会になる様、地域に貢献できるよう皆様方のご指導を受けながらも少し頑張っていこうと思います。

最後になりましたが、協会の益々の発展、会員の皆様に幸多き年となりますようご祈念申し上げます。



年男の抱負

おくらず、むかえず おうじてしかして おさめず
“不将不逆 応而不蔵”

有限会社 米江組
代表取締役 米江 猛



平成28年の年頭にあたり、謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

本年、生まれた年を含めて6回目となる申年の私は、家業の建設業を継承して、はや35年が経過し、還暦を迎えました。

この間、「激動」と言う形容がピッタリと当てはまる業界の盛衰を目の当たりにしてきましたが、禅の教えに「おく将らず、むか逆えず、しか応じておさ而して蔵めず」とあるように、厳しい建設業界にある経営者に求められる姿勢は、まさに「過ぎ去ったことを悔やまず、これからやってくることに取り越し苦勞をせず、先入観を持たずにいつも目の前に起こったことに向かい合い、結果を淡々と受け止め、そして悔やまない。」というものだと感じています。

今までたくさんの先輩や同僚、お得意先の皆さんにお世話になり、事業を継続することができました。古くは還暦を社会からの隠居の年齢としていたようですが、平均寿命が80才を超えた今日では「ベテランの現役」との位置づけで、若い人たちの指導や適切な助言をする役回りが必要です。そのためにも、信用を高め、技術を磨くという基本を大切に、「研鑽を怠らず」という姿勢を貫徹する年にしたいと思っております。

会員各位のご隆昌をお祈り申し上げます。





安全委員会 視察報告



安全委員会

副委員長 三代 修治〔有斐川建設〕

私たち安全委員会は、昨年9月10・11日大阪府北区中之島にある大阪国際会議場で行われた第52回全国建設業労働災害防止大会に参加しました。

最初に、この大会で私が安全衛生表彰の功労賞をいただいたのも皆さまのおかげと深く感謝しております。大変にありがとうございました。

当日は、来賓に厚生労働省塩崎大臣、国土交通省太田大臣、大阪府松井知事を迎え盛大な開会式となりました。式典では、来賓の方々の挨拶から始まり続いて建災防大阪支部長蔦田氏による歓迎の言葉がありました。その後、安全衛生表彰等があり、私も違う場所でしたが立派な盾をいただき大変ありがたく、嬉しく思いました。そして後半は、労働基準局安全衛生部長の土屋氏による「労働安全衛生行政の動向について」とテレビでお見かけする時事通信社解説委員 田崎史郎氏による講演がありました。

その夜は、建災防島根県支部の皆さんも交え和やかな懇談をしながら美味しいお酒をいただきました。酔い醒ましに道頓堀を散策し、裏手にある法善寺に寄り安全を祈願して帰りました。

一夜明けて二日目は、各専門部会が行われ、そこには建築・土木・安全衛生・住宅・コスモス等の部会があり各会社での優秀な実践活動や近畿地方整備局管内における事故発生状況とその対策についての講話がありました。土木部会では、大成建設株の伊中作業所長による作業所におけるスローガン「めざせ！事故災害の撲滅！」と題して、安全衛生管理活動に対する取り組みや、木下建設株安全連絡協議会の鎌倉会長による「工事現場における命のリレー」と題して、事故が発生したという想定で119番通報（模擬）から救助隊と合同訓練による実体験等の発表がありました。

また、安全衛生教育部会では、大成建設株の送り出し教育のDVD上映などがありました。

他に、3Fのフロアでは、安全衛生関連業者による安全衛生保護具や測定機器・安全標識・書籍等の展示販売があり、いろいろな面で参考になりました。

今回の全国大会でも、建設労働災害の根絶を目指して、

- 一、 墜落・転落、建設機械・クレーン、倒壊・崩壊の三大災害防止対策の徹底
- 一、 安全衛生管理体制の充実および安全衛生教育の積極的な実施
- 一、 リスクアセスメントの確実な実施とコスモスの推進

これを重点として、“労働災害防止活動に取り組み、安全で快適な職場環境の形成を図ることを誓います”と宣言され閉会しました。

最後に、「安全は出雲から」といつも分会長が言われていますように、出雲地区が県内のリーダーになるように皆様の事業所を含め、みんなで一緒に頑張りましょう。ご安全に！

経営研修会に参加して



有限会社 丸嘉土建

代表取締役 土江 のり子

平成 27 年度の経営研修会に参加しました。

研修内容は「マイナンバー制度の取り組み方について」「地域建設業に求められる B C P」についてでした。

まずマイナンバー導入に向けての全体スケジュールを佐藤社会保険労務士より

1. 社内体制の整備
2. マイナンバー収集の洗い出し
3. 収集対象者への周知と番号の収集
4. 方針の明確化と規定整備
5. 安全管理措置の検討

等について講演がありました。いずれも経営者として事務方、税理士及び社労士に丸投げではなく体制の確認整備、社内システムの管理を把握することが重要であることを認識しました。

次に地域建設業に求められる B C P について国土交通省の足立氏・豊島氏より講演がありました。新たなステージに対応した防災減災の在り方の説明がありました。B C P 策定の目的を明確化し、ある程度の被害が発生しても、少なくとも命を守り、社会経済に対し壊滅的な被害が発生しないで危機感を共有し、社会全体で対応することが必要だと述べられました。

また、東日本大震では複数の企業が大規模災害に対して実際に B C P を発動し、事業を継続させることに成功した例を聞きました。

1. 従業員を守る
2. 企業を存続させる
3. 地域の活力を守る

等の大意があればこそ企業存続、事業の早期復旧ができたのだと知りました。

我が社のような零細会社は無用だと決めつけていましたが、この講演により会社が大なり小なり国土交通省発注工事の有無は関係なく、B C P の策定は経営者として重要であることを再認識しました。認定作業は大変のようですが申込認定まで社員と一丸になって平時から準備すべきであり、災害が自社に及ぼす影響の把握を早急にまとめることにしました。

最後に、マイナンバーのことも B C P のことも、社会全体が求めている制度に経営者としてもっと深く学習しなければならないと反省しました。とても有意義な会に参加させていただき感謝しています。

インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年出雲市内にある出雲農林高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

インターンシップ 体験談



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 岩崎 航

5日間、株式会社今岡興産佐田支店で職場体験をさせてもらって、とても学ぶことが多い1週間となりました。

まず自分は、あいさつをしっかりと会社に行くまでに決めていました。そうすることにより、会社の人たちとスムーズに交流できる気がするし、相手の方も気持ちがいいと思うので、あまり迷惑に思われなくなるのではないかと思ったからです。

実際に現場では、高校で勉強した以外の器械での測量なども体験させてもらって、最初は全然できなくて迷惑をかけてしまったので、できることからやろうと考えていたあいさつが意識してできたことは良かったです。

光波やレベルでの測量をさせてもらって、今まで知らなかった早い据え付けの方法や、視準の

仕方なども教えてもらって、これからの測量の実習に活かせることもたくさん教えてもらってタメになりました。

現場視察にも行きましたが、他の会社の方や市役所の方、さらには警察の方とも話をしながら計画を立てて作業をされておられるのを見て、社会に出てから活かせることがたくさん見られたし、説明してもらって勉強になりました。

また、現場では作業するごとに工事名などを書いた黒板と一緒に写真を撮っておられるなど、現場に入るまでは知らなかったことを経験できて新鮮でした。

この1週間は、仕事をするにあたっての辛さや厳しさなどのことも知れたし、一方で仕事の楽しさや終わった時の充実感などのことも分かりました。

これからは学校の座学や実習を頑張り、自分の望んだ仕事に就けるように励んでいきたいです。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科 2年 田中 凌

私は、職場体験学習で中筋組さんにお世話になりました。最初は緊張していてどのように取り組んでいけば良いか不安がありましたが、親切丁寧に説明をしていただき、安心して作業に取り組むことが出来ました。

取り組んだ内容としては、丁張の設置やブロックの寸法検査、除草作業や現場見学などを体験しました。特に印象に残ったのは、作業にあたる方々の手際の良さでした。片付けの事まで考えて取り組んでおられ、動きに無駄がないように感じました。仕事をするうえで、1日の時間は限られているので、いかに効率よく仕事に取り組めるかということがとても大事なことだと実感しました。それに比べて私たちが学校で行う実習の中にはまだまだ無駄な時間が多く、効率が悪いと思います。今後の実習に活かしていきたいと思いました。

また、社会人としての言葉づかいも勉強になりました。どんな仕事も人と接することがたくさんあり、その中で上手にコミュニケーションをとりながら仕事を円滑にすすめていかななくてはなりません。言葉づかいは相手から信頼されるための最低条件だと思います。

建設業は、人々の生活に必要な様々な土木構造物を造る、社会に貢献できるやりがいのある仕事だと思います。私は、今回の職場体験学習を通して学んだことを今後の学校生活に活かし、是非建設業で働きたいと感じました。

5日間、お世話になった中筋組のみなさん、本当にありがとうございました。

株式会社出雲建設会館竣工10周年を迎え 記念行事を開催しました。

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

事務局長 木村 寛



旧 出雲建設会館



現 出雲建設会館

平成 27 年 11 月 24 日（火）、島根県出雲地区建設業協会の活動拠点である出雲建設会館が竣工 10 周年を迎え記念行事を開催しました。

ビッグハート出雲で行った記念式典では、(株)出雲建設会館 今岡余一良代表取締役が「当会館は旧会館（大津町）から移転以来、建設業関係者の各種会合や技術者及び技能者の研修などいろいろな形で広く活用いただいている。厳しい環境におかれる建設業界ではあるが、地域の安全、安心の確保など業界の使命を果たしていく活動の拠点として当会館はなくてはならないものであり今後とも更なる活用を願いたい。」とあいさつ。

続いて、来賓としてご臨席いただいた長岡秀人出雲市長から「“住みたい出雲”の実現に向けて、発注者の責務を果たすとともに、出雲市全体のまちづくりを建設業界とともに取り組んでいきたい。」とごあいさつをいただき記念式典を終えました。





式典終了後に開催した記念講演会では、場内満席の中で、出雲市出身の映画監督 錦織良成氏から、「ローカルは最先端一島根でこだわりの映画を創るー」と題するご講演をいただきました。

講演では、「今の映画界へのチャレンジをこの出雲から…。そして、全国に通用するメッセージがこの出雲で創れる!。」「ものづくりという点では映画業界も建設業界も基本は同じ。こだわりを持つことが大切…。」と、錦織監督の映画づくりへの情熱と、ふるさとへの熱い思いをお聞きすることができました。



関連行事として開催した「お茶会」では、建設会館の会議室を「お茶席」に仕立て、協会会員のお点前によりたくさんのお客さんをお招きし団欒の場となりました。

また、記念行事の締めくくりとして開催した祝賀会では、会館竣工10周年を多くの会員で盛大にお祝いしました。



「とんかつ専門店・薩摩居酒屋 かのや」 (新分野に進出した今、感じていること)

株式会社 岩崎建設

取締役 岩崎 昭子

昨年1月31日、出雲市白枝町に、とんかつ専門・鹿児島郷土料理のお店「かのや」をオープンしました。

保有マンションの老朽化に伴い解体を決断し、その跡地に何か・・・（地域に貢献できる事・・・長く継続できる事・・・地元の方に喜ばれる事・・・）などいろいろな案件に主人も頭を抱えていたようです。サービス付き高齢者賃貸住宅は計画の段階まで行きましたが、結局、主人が「とんかつ屋」と頭に強く閃き「やるぞ！！」という思いで「とんかつ屋をやるに当たって」のリサーチを始めていました。まるで“探偵”のような日々が続きました。（この頃私は、主人の怪しい行動に不信感を募らせていました）そして、ついに主人自ら店の図面を引き構想を練り始めたのです。やっと私に相談された時は、「え～っ！本気ですか？」と口にしたのを覚えています。

なにせ全てが初めての飲食業…問題に次ぐ問題の山、山、山。特に大山だったのは、“ひと”の問題です。まずは店長、そして料理長～そこが何とかクリアされ、いよいよ始動開始！まずは、お客様のターゲット層とお店のコンセプトを決め主人の想いにホダサレ？鹿児島に食材の調査、調達に何度も走らされました。

✳実は私の生まれ故郷なので、いわゆる里帰りのな(^^♪)



一番ありがたかったことは、鹿児島県鹿屋市にある、とんかつ屋の人気店にお願いして少しお話を聞く事ができ、指導をいただいたことです。養豚→屠殺現場→製肉→梱包までの工場視察に始まり、郷土料理の選定、仕入先への訪問・・・大変でしたが、いろんな方々に出会えて優しさに触れられた事は、私にとってとても嬉しく、大きな励みになりました。



その後、建設業から新分野へ進出するに当たり、島根県の「建設産業新分野進出促進事業補助金」及び出雲市からも同様の補助金制度を申請し、その補助金を遣わせて頂き、なんとかオープンにこぎつけることができました。ところがオープニング

スタッフ（特にマネージャーの私）が超素人でしたので、ひっそりとオープンしたにもかかわらず…てんやわんや、クレーム処理の日々が続きました。最初の3ヵ月はいわゆる“無我夢中！”朝から夜遅くまで働き通しの毎日。その後は一段落し、今度は逆に営業をしなければ、と考え始めた頃、周りの方々の支えも頂き、地道に真面目にお客様と対応し、美味しいものを提供しようという思いが、じねんに（徐々に）伝わり、又忘年会という時期にも入り、少しずつ認知されてきたように感じています。これからも、がんばって地域の方々に喜ばれるお店として継続していけたらいいなと考えています。



又、公共工事の減少により建設業界も厳しい昨今ですが、多方面に目を向けながら前向きに邁進する所存です。どうぞ、これからも「かのや」にご愛顧いただけますよう宜しくお願いいたします。

第28回

サラリーマン川柳

ベスト10

第一生命保険株式会社では、例年サラリーマン川柳コンクールを実施し、サラリーマンはもとより、OLや主婦、学生など誰でも参加できる「サラリーマン川柳コンクール」の作品を受け付けております。

(一社) 島根県出雲地区建設業協会では、日頃仕事に追われ、多忙な毎日を過ごされている会員の皆様の気分転換の一助になれば、との思いから2011年の建設会報に掲載したところ、思いのほか好評を博したところであります。

そのため、昨年実施された第28回コンクールの結果を今回も掲載することに致しました。皆様、どうかひと時の間仕事から離れて、このページをご覧ください。思存分堪能してください。

1位

皮下脂肪
資源にできれば
ノーベル賞

イツノ家

2位

湧きました
妻よりやさしい
風呂の声

湘南おじん

3位

妖怪か
ヨー出るヨー出る
妻の愚痴

こまさん

4位

壁ドンを
妻にやったら
平手打ち

若ジイジ

5位

記念日に
「今日は何の日？」
「燃えるゴミ!!」

FUTA

6位

増えていく
暗証番号
減る記憶

なにが正しい

7位

あゝ定年
これから妻が
我が上司

呼人

8位

オレオレと
アレアレ増える
高齢化

エビカニ

9位

ひどい妻
寝ている俺に
フアブリーズ

冷てえ!

10位

充電器
あったらいいな
人間用

電池切れ



編 集 後 記

昨年、株式会社出雲建設会館竣工10周年の式典が開催されました。

10年前の建設業界は成長期・安定期からマイナス成長期への転換期にありました。精度の高い品質管理と安全管理を行えば、それなりに経営が成り立った時代から、それに加え細やかな営業管理、原価管理を求められる時代へと変化したように思います。また経営者は経営の合理化・異業種参入など、今まで成長期・安定期には考える必要のなかった事案に取り組むことを求められ、私自身も辛い選択を幾度となく迫られていた事を記憶しています。

あれから10年、厳しい状況は変わってはいません。加えて労働力不足など新たな問題が懸念されています。しかしながら建設産業に対する一般社会からの見方、業界内の考え方が未来を見据えプラス方向へと変化しつつあるのではないのでしょうか。自然環境や住環境に配慮した工事施工、自然災害等への対応が社会・地域から理解され、様々な企業努力が実を結び始めているように感じます。

さて、2016年の丙申(ひのえさる)は戦後2度目にあたり、専門家によれば「革命」の年だそうです。建設業界にも新たな光が見えることを期待しつつ、地道な努力を続けていきたいとします。皆様方にとっても良い一年となりますように。

経営改善研究委員 三原 昇〔やたま建設株〕

一般社団法人
編集・発行人 島根県出雲地区建設業協会
経営改善研究委員会